

第14期第2回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和6年（2024年）5月10日（金）午前10時00分～正午
場 所 国立市役所3階 第4会議室
出席者 山谷会長、楠田副会長、山崎副会長、神山委員、北委員、佐藤委員、田中委員、長嶋委員、山岸委員（委員は50音順）
事務局 黒澤生活環境部長、清水ごみ減量課長、吉村ごみ減量課長補佐、中嶋環境センター所長、川島施設延命化担当係長、新清掃係主任

【議事要旨】

1 第14期ごみ問題審議会Q&A表及び第2次国立市循環型社会形成推進基本計画の総括について事務局から説明した。

【山谷会長】皆様のご意見をお願いします。

【山崎副会長】第14期ごみ問題審議会Q&A表のNO.13について、自治体DXとは何でしょうか。

【事務局】DXはデジタルトランスフォーメーションの意味です。国が使っている言葉で、一般的には自治体のICT化のことを自治体DXと呼ぶことがあります。

【山谷会長】第14期ごみ問題審議会Q&A表のNO.4の国立市と府中市の違いについて、府中市ではごみ袋の有料化前、市域全体に常置された路上のダストボックスを市民が使用してごみを排出していました。緑色の可燃のボックスとオレンジ色の不燃のボックスというように常置されていたようです。私は当時、有料化の調査をやっていて府中市に聞き取りをしたことがあります。市が実施したアンケートでは、有料化に伴いダストボックスを廃止することへの反対意見も結構多く、市民の議論が二分されたようです。このような社会的摩擦とか議論が起こると意識改革効果は非常に大きいと思います。例は他にも、複数市で運営していた清掃工場の老朽化により清掃工場を閉鎖せざるを得なくなった事例もあります。閉鎖によりごみの持って行き場がなくなってしまった。そのため他市が運営する清掃工場へ受け入れてもらったというようなことがありました。やはりこのような大きな社会的摩擦があると市民の意識が変わります。ごみを減らさなければ他市に迷惑をかけるというようなことで、ごみ減量に取り組まざるを得なかったというような自治体は現在も多摩地域のトップランナーになっています。

Q&A表について他に質問はありますか。無いようなので他の資料について事務局より説明をお願いします。

・資料1 国立市ごみ問題審議会 行政による評価の振り返り、資料2 行政による評価の振り返り（コメント）、資料3 第2次国立市循環型社会形成推進基本計画の総括（評価）について（案）について事務局より説明した。

【山谷会長】資料1の各施策の評価の変化は、事務局の評価が示されています。表の下部に総合評価がありますが全てB評価となっています。ただ、パーセンテージもその上についているということに

注目していただきたいと思います。

A評価を見ると、令和2年、3年、これは新型コロナウイルス感染症のピークかと思います。様々なイベント、住民説明会や出前講義などを含めたプログラムができなくなった。または、回数を増やせなくなった、全くできなくなったということもあったと思います令和2年から令和3年にかけて11%から8%に落ちています。令和4年になり34%まで上昇しています。そういうプログラムがまた再開されるようになったという辺りを評価したものかと思います。新型コロナウイルス感染症の影響を現状施策についても大分受けているということが見てとれます。

C評価のところを見ると、年を追って比率が低下しているという状況もあります。

したがって、おおむね行政評価は高くなるという傾向を見てとることができるかなと感じます。第1次基本計画、第2次基本計画と大分減量プログラムも充実してきているのかなという感じでありまして、これを踏まえて第3次の基本計画を策定するということかなと思います。

【山崎副会長】資料1下部その総合評価について、令和4年の中でCが3%とあり、C評価の施策項目は(3)収集・運搬③安全かつ安定的な収集体制の確保のみということでしょうか。

【事務局】そうです。

【山崎副会長】平成28年、29年はAで、その後ずっとCが続いていることを何とか改善したいということかと思えます。Cを免れなくなってきている大きな要因というのは何でしょうか。

【事務局】こちらのCが免れないというところですが、国立市では火災など大きな事故は起こっていません。しかし、収集車が塀に接触するなどの事故が毎年数件発生しています。中には、完全に停止している収集車が後方から追突されるなど防ぎようのない事故も集計に含んでいます。行政側としては安全かつ安定的な収集体制の確保ができているかということについては、厳しく見てC評価としています。

【山崎副会長】収集箇所が増えているため収集作業員が急がないといけないとか、様々な時間的な問題もあると思います。その辺りの背景にあるものをどう改善できるかということについて教えてください。

【事務局】確かに収集箇所と言うとかなりの割合で増えていますが、収集業者との話では過度な負担にはなっていないと聞いています。当然そういった必要があればまた対応していくことは当然必要だと思っていますが、今現状の中ではそういったところの話は、市として認識はないということです。

【神山委員】同じく③安全かつ安定的な収集体制の確保について、平成29年度まではA評価ですが、収集箇所も少なかったということでしょうか。

【山谷会長】それは言えると思いますね。ごみの有料化と戸別収集を同時に実施するというのも検討しましたが、収集力所が増加することでコストがかかることもあり、議会のほうではこれまでどおりを基本として収集方式を取って、いろいろ工夫して何とかやれないかというようなことになりました。戸別収集に切り替えるというのは、有料指定袋を使わないとか、きちんと分別がされてない排出が多くなるなどトラブルが多いところについては適正排出に向けて戸別に収集させてもらうというような形で話し合いをして切離しをしました。そして、7,000箇所ぐらいの収集場所が9,000箇所以上にだんだんと年々増えてきたという状況です。今でも多分増えていることだろうと思います。よほど気をつけて収集作業をしてもらわないと何かの事故に結びつきやすいということです。

これは国立市に限らず、埼玉県の自治体で収集業者の不注意でサイドブレーキをかけていなかった、車止めをし忘れたなんていうことで車が動いてしまったというような事故が結構あるようです。

収集事業者の管理監督は非常に大きな課題だというような話は聞いたことがあります。

【事務局】日本全国で清掃車の火災事故というのがよく起きているかと思いますが、国立市ではここ数年、火災事故はありません。これというのは都内で本当に数少ない、本当に例が少ない自治体の1つです。火災事故を起こしていないというのは、収集業者の努力、経験やノウハウを持っているということもあると思います。引き続き収集業者と連携を強化しながらやっていきたいと思っています。

【山谷会長】ごみの分け方・出し方カレンダーもなかなか作りがよいですね。絵入りで有害ごみ、危険物とわかりやすいこともあり、市民が非常に協力的に排出していただいているということだろうと思います。

しかし、リチウムイオン電池が主ですけども、これは生活が便利になるに従ってどんどん増えていきますよね。私が扇風機を買ったら、扇風機のリモコンの中に10円玉を薄くしたようなリチウムイオン電池が使われていました。充電式のリチウムイオン電池もあるし、非常に薄いリチウムイオン電池もある。ありとあらゆる家電製品、おもちゃにまで使われるようになっていきます。ということで大きな問題になっています。

【楠田副会長】資料1行政による評価の中で、山谷先生から下のほうのA、B、C評価の推移、第2次基本計画の期間の総括というのがあり、そうだなと、コロナ禍のときにはいろいろなイベントができなかったのがA評価というのが少なくなっているけど、今やっと復活しているという総合的なレビューをされて、それを踏まえて第3次基本計画というのを考えるということは私もそうだなと思いました。一方、縦のほうの総合評価です。表の右側の各施策が評価されているものに注目すると、

(3)③安全かつ安定的な収集体制の確保というところが総じて見ればC評価ということで、直近もC評価となっています。ただ、(3)収集・運搬の5項目全てについては平成28年度の第2次基本計画のスタートのときはA評価でスタートしています。これが、時間の経過とともに収集・運搬のところというのは行政としても相当力を入れたものの、残念ながら③の安全かつ安定的な収集体制の確保のところだけがC評価ということで、第2次基本計画の間ではいびつな格好になってしまった。そのため、第3次基本計画を考える際は、引き続き収集・運搬のところは行政としてやらないといけない重要な事業だと思います。安全かつ安定的な収集体制の確保というのが時間経過とともに様々な問題を含んでいる、これをどう解決していくのかというような見方をすると、次の第3次基本計画では行政として目標とすべき項目、重要な項目の一つであると思いました。

【山谷会長】ありがとうございました。第3次計画を策定検討する際に、ただいまの(3)の安全かつ安定的な収集体制の確立に留意すべきだと、ほかの皆さんも共通の認識ではないかなと思いますので、ただいまの御指摘は踏まえてまいりたいと思います。ほかに御意見はございませんか。

【山岸委員】Q&A表のNo.4に関して、多摩地域のトップランナーになるとどのような良いことがあるのでしょうか。国立市はごみ減量にすごく取り組んでいるというふうに市民が思えるということがとても大事だと思います。自分たちはトップランナーだからこういう行動をしよう、もっと分別しようと考えたいと思います。

【山谷会長】トップランナーという言葉が出てきましたが、実はごみ袋の有料化の検討をしているときに第2次計画が策定された。ごみ袋の有料化や戸別収集の実施も検討するなど、そういうふうにして市民の減量意識を高めようという、ある意味意欲に燃えていたと思います。そのため、トップランナーであるという、それが今日の計画の表紙にもサブタイトルで出てくるというようなことで、今後はトップランナーによほどこだわる必要はないのかなと思います。トップランナーに現在なってい

る自治体を見ると、非常にごみ問題に苦勞しているところのようです。国立市は多摩地域の中で今は中位にあり、これを上げていくというのはぜひ取り組みたいところです。しかし、1番から4番という順位にいつまでもこだわっていく必要があるのかなという気がします。ごみ袋の有料化は2017年に開始してから7年が経過しています。ごみ量は年々減少しています。市民あるいは事業者も含めて相当の減量に協力してくれないとできることではないだろうと思います。その協力を引き出せるような仕掛けを用意しないといけないということだと思えます。

【山岸委員】府中市がトップランナーと初めて聞いたときに、羨ましいなどは感じませんでした。府中市民の方も自分たちがトップランナーという意識はないのではと思います。数値だけでなく、国立市は文教都市で、知的なイメージで先進的にリサイクルしていますよという事例が1つでもあることが大切だと思います。

【山谷会長】なるほど。トップランナーを目指すというよりは、年々着実に減らしていく、その減量の市民、事業者による取組をサポートするというような行政で、そして取組を促すようなプログラムを編み出していくと、そのところで皆さんのお知恵をぜひ拝借したいと思えます。

審議会としては、新しい第3次基本計画には、これまでの計画に基づく様々なプログラムの評価結果を踏まえて、より前進する内容にしていきたいということでもとめとすることでいかがでしょうか。施策の中には一部引き継がないものもあるかと思いますが、基本的には第2次基本計画を継続するという形で取り進めるということはいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【山谷会長】ありがとうございます。それではごみ問題審議会として、第2次基本計画の内容を原則継続していくということにしたいと思えます。ありがとうございました。

2 国立市環境センターの今後の在り方について事務局から説明した。

【山谷会長】御意見がございましたら、御質問も含めてお願いいたします。

最新の処理機械や設備を見ることができ環境展が都内で毎年開催されます。機械設備は年々新しく高精度なものが出ています。建設後35年間が経過している環境センター施設の延命化については、設備の更新も適時適切にしていけないと思えます。国立市環境センターの今後の在り方について、ご意見をお願いします。

【山岸委員】環境センターを見学した際に、割と手作業が多いなと感じました。今後は機械化も検討していくのでしょうか。

【山谷会長】そういうことですね。最新の設備を導入していくということです。今はそういう機械設備のDXというのは本当に進んでいます。町田市は生ごみのバイオガス化をやっています。今までは生ごみだけを可燃ごみとは別に分別排出してもらおうという形でしたが、それだと大都市の住民は、特に若い人たちは協力してくれないという問題があった。そのため、可燃ごみとして出してもらい、それを集めた後にトロンメルなどの機械を用いて機械選別で生ごみは結構きれいに分けることができるそうです。その生ごみをバイオガス化の発酵槽に投入して、数十日かけてメタンガスを作る。そして、発電して、所内で使用するだけでなく電力会社等に売電するという流れです。これは再生可能エネルギーの位置づけで、比較的高い値段で買ってもらえるそうです。そんな機械も出てきているということです。

【山崎副会長】 国立市も生ごみからメタンガスを生成するという方向性の検討はしていますか。

【山谷会長】 そうですね。国立市の場合は府中市、稲城市や狛江市と共同運営していますね。

【事務局】 広域化、集約化というところは日本全国で課題になっているところです。過去の経緯やタイミングなど様々な課題があり、なかなか簡単ではないと考えています。

共同運営している焼却処理施設のクリーンセンター多摩川は延命化工事を進め、合計で40年間使えるように施設更新を図っています。環境センターについても、市のほうは当面必要な施設だというふうに考えています。どこの自治体も公共施設が古くなり建て替えや大規模修理の課題を抱えているかと思います。いかに今あるものを延命していくかというところで検討しています。

町田市は数年前に施設を新しくされました。その際にバイオマスガスを使って発電するための施設を新たに造ったようです。国立市の場合は、クリーンセンター多摩川の焼却処理施設で燃やす力を使ってのバイオマス発電を既に行っています。現状、国立市は町田市のような施設を新しく造るという流れにはなっていません。

【山谷会長】 国立市だけでなく、焼却設備が古くなり、5年後、10年後ぐらいに建て替えが迫っているというような自治体もあるようです。町田市がどのように推移するか、どのような成果が上がるか等を注目している自治体もあると思います。

大規模な生ごみリサイクルの施設を導入することは良いことばかりとは限りません。例えば都内では、埋立地にできたバイオガスの民間の会社で、生ごみを入れ過ぎて破裂した事例がありました。幸いにして死傷者とかは出なかったものの、運用を少し誤ると大きな事故になる可能性があります。他県でも、下水処理施設がないような自治体は、し尿の処理と可燃ごみの処理を一緒にしているところがあります。そこでは万が一、硫化水素が漏れることがあると大変なことになりますので、発酵槽の脇にヤギ小屋があり、ヤギさんにチェックしてもらおうというようなことされているようです。新しい技術が様々出てきていることは間違いしないということです。

【山岸委員】 建設後35年ということは、まだしばらく使えるということですか。

【山谷会長】 建屋は延命化をし、設備は更新していくという形で長寿命化を図るということです。

【事務局】 環境センターの中間処理施設の役割というのは非常に大切であると考えています。毎日ごみは出ますので稼働を止められない施設であるため、大きな事故や故障が起きる前に必要な修理工事を都度実施しています。設備の延命化には使用頻度も関係してきます。設備のメーカーと協議する中で必要な修理、修繕をしながら延命化できるのではないかと考えています。

【山岸委員】 ありがとうございます。しばらく手作業が続くということですね。タイミングが来たら新しい機器も入る可能性があるということでしょうか。

【事務局】 そうです。新しい施設を建てると数十億円単位で動いていきますので、計画を立てながら、次の更新を目指すのか、延命するのか、そういった判断をする必要があると考えています。

【山岸委員】 ありがとうございます。よく分かりました。

【山谷会長】 環境センターのパンフレットの裏面、活性炭吸着装置を設けているということですが、近隣から臭いのクレームが来ることはありますか。なんていうことは特にはないですか。

【事務局】 私の知る限り、臭いや振動でのクレームはございません。常に委託事業者と連絡を取りながら、何かあればすぐ解決するという体制は取っております。

【山谷会長】 他市にある生ごみ堆肥化施設で、臭いの問題で数年間稼働ができなかった施設もあったようです。環境センターの場合は臭いの問題というのは特にはないということですね。

【北委員】環境センターを見学した際、容器包装プラスチックの有料ごみ袋が手作業で切り裂かれて、袋自体がリサイクルに回されていないように感じました。有料ごみ袋のリサイクルについて実情はどのようになっているのでしょうか。例えば、容器包装プラスチックの有料ごみ袋にリサイクルできるプラスチック類が入っているのであれば、そのまま圧縮してリサイクルの工程に投入できれば効率が良いのではないかと思います。そもそも手作業で袋を裂いてリサイクルするという発想をなくせないのかなと思いました。

【事務局】容器包装プラスチックの有料ごみ袋と、その中に入っているものはリサイクルされる行き先が異なります。袋のほうは袋でまとめて、また袋に戻るようリサイクルをしています。そのため、中間処理施設に搬入されたごみ袋は手作業で破袋します。袋の中に異物は無く、そのままリサイクル出来るのであれば、まとめてリサイクルしたほうが良いのではないかと思います。実際には袋の中の不燃物の中にも、搬出先で求めるものが違うため不燃物の種類によって分けていかなければいけないものが少なからずあります。それを目視で作業員の方の手と目で確認して大きく分けて搬出するというので、手選別の工程が中間処理施設のほうは多くなっております。

【北委員】夏場に近い時期に施設を見学したので、弁当の油がついたような汚れたプラスチックなどが腐敗していて作業員の方にとってはとても大変な状況に感じました。そのような環境を減らせるように、そもそも作業員が分別しないでいいようにするというようなところも、設備機器を改修する中で考えてみても良いのかなと思いました。

あと一市民として、どの程度の汚れなら容器包装プラスチックとして出して良いのか常に迷いながら分別しています。ごみの分け方・出し方カレンダーでも汚いものは入れないでくださいと文字で書かれてはいますが、絵やイラストを使うなど1ページ割いてもっとわかりやすくしてほしいと思いました。

【山谷会長】審議会としては、環境センターの在り方などについて、事務局でしっかり検討していただき、第3次循環型社会形成推進基本計画にはその検討結果を踏まえて反映してほしいということでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

3 その他

(1) 令和4年度および令和5年度 ごみ減量実施事業および実績(報告)について事務局より説明した。

【山谷会長】令和4年度および令和5年度 ごみ減量実施事業および実績(報告)について、ご意見をお願いします。

【神山委員】(1)の生ごみ堆肥化事業について、実績にある数値は1年間分ということでしょうか。

【事務局】令和4年度は半年間で1,310kgでした。令和5年度の1年間で5,515kgでした。合計すると6,825kgほどの生ごみを回収しました。

ごみ減量課ではごみの減量という大きな柱と資源化ということで、EPRの観点で事業者、市民、行政が三位一体となって循環型社会形成に向けた取組を進めています。例えば(株)アールプラスジャパンという企業と協定を結び、プラスチックの自主回収事業の実証実験を行っています。また、厨芥類を減らす取り組みの一つとして生ごみ堆肥化事業も試験的に取組を進めています。

【山谷会長】数年前に複数の省庁がプラスチック循環戦略という報告書をまとめました。そこに示さ

れたものがその後非常にうまく展開されてきました。その戦略で打ち出されていたレジ袋の有料化が早々と実施に移されて、その戦略を進めていくには民間の協力と市民の協力が必要ということで、民間企業がどれだけ動いてくれるのかなという気持ちがありました。結構メーカーが動いてくれている。そして、メーカーの拡大生産者責任の取組を行政、自治体が協力して市民に働きかけていくという形でうまく回ってきているかなと思います。そういう取組を、国立市においてもペットボトルの水平リサイクル事業、シャンプーボトル等回収事業、空コンタクトレンズケース回収事業などを中心に行政として市民に働きかけて、このような成果が上がってきていることと思います。

【山崎副会長】第3次基本計画を策定していく中で生ごみの減量化と資源化の両方を検討していく必要があると思います。(1)の生ごみ堆肥化事業について、実際に堆肥化事業としてかなり前進しているように感じますが、実施できる世帯数や収集量の限界があると思います。この2年間、具体的にどこでどのように実施していたのか、どれぐらいの量まで拡大できそうかという現状と今後の展望を教えてください。

【事務局】令和6年度につきましては、50世帯から90世帯程度まで増やすことを考えています。

現状の収集体制について、臨時収集という委託業務の中で追加費用をかけずに業務内容を整理し可能な範囲での収集を行っています。回収拠点が51世帯で51か所あります。それらを回収して堆肥化施設へ運搬しています。運搬先につきましては令和5年度までは瑞穂町にある施設に、令和6年度からは八王子市にある施設に変更しました。令和6年度は収集箇所を抑えながら参加世帯数を増やすため、集合住宅の方への案内を検討しています。

端的に言うと本事業を拡大することは非常にお金がかかります。今年度、国立市は予算を組むのがすごく大変な状況がありまして、私たちは拡大したいということで予算をもっとつけてくれと要求しましたが、全体の優先度の中でここは通らなかったというのが実情です。お金をかければお金をかけるほど当然集めることができるのですが、今回はそこまでいくだけの予算がつかなかったというのが本当のところでは。

【山崎副会長】堆肥化の作業は国立市内ではないということですね。他市の施設でできた堆肥を、国立市民に配布するというような形ですね。

【事務局】その通りです。

【山谷会長】何かのイベントの中で、生ごみで作られた堆肥を利用してできた野菜や生産緑地等で作られた野菜を市民に料理として出す等、そんなことがことできると良いと思います。

【田中委員】生ごみ堆肥化事業に取り組んでいるということはほとんどの市民が分からないと思います。11月の消費生活展などでパネルを使って宣伝してみるのも良いと思います。

あと、シャンプーボトルの回収方法について、市内に何か所か設置されている白色トレイの回収箱の隣に設置してみてもいいでしょうか。シャンプーボトル等は結構ごみ袋に入れると膨らんでしまいます。

【事務局】白色トレイの回収箱は市内複数設置されている、プラスチック製の収集容器です。シャンプーボトルの回収箱は、自主回収を実施するメーカー側で作製された段ボール製のものです。そのため基本的には室内や雨風に当たらないようなところに設置しています。メーカー側が回収箱を改良されれば設置も検討できるかと思います。

【山谷会長】ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。それでは、神山委員から事務局に何かご提案があったようですのでご説明をお願いします。

【**神山委員**】第3次基本計画を策定に向けて、方向性の一つとして考えていただけたらと思うことがあり、委員の皆さまのご意見を伺いたいです。バッグ型のLFCコンポストでできた堆肥の回収、利用場所として国立市の桜の堆肥として使っていただくことはできないかという提案をさせていただきました。様々な課題があり、現状は難しいということでした。ごみを減らしましょうと言っても、これ以上伸び悩むという部分があると思います。桜の堆肥として利用することが難しいとしても、市民と一緒に楽しめるような循環の仕組みがあれば良いと思います。生ごみからできた堆肥が、どこに使われて、どのように循環されているのかというのが目に見えるというのは、堆肥化をやるうえで励みになると思います。例えばコミュニティガーデンのようなものを造ることや、生産緑地の農地を市民全体で借りて、みんなで堆肥を活用していくようなことの試みが広がると良いと思います。

【**山岸委員**】現状は難しいということですが、どのような問題点があるのでしょうか。

【**神山委員**】市民の生ごみからできた堆肥を公共のものとして使えるかというところです。また、法律的に引っかかる部分があるようです。良い取り組みだと思うので、ぜひ検討をお願いしているところです

【**事務局**】今回のご提案は、ごみ減量課と環境政策課で話を受けております。まず、堆肥化するためにコンポストをどこかに置くということ、出来上がった堆肥を桜の堆肥に使いたいという話がありました。まずごみ減量課としましては、コンポストの基材は有機物を分解するために適したものであると聞いていますが、それを廃棄する場合は、廃棄物に該当すると考えています。そのため運搬等する場合、廃掃法に基づいた適正な処理が必要になると考えています。次に、堆肥の保管等については環境政策課の話になるので詳しく聞いていないところですが、コンポストの基材をどのように利用して堆肥として扱えるかという話は、今、聞いて進めているところと話聞いております。

【**山谷会長**】国立市では先駆的にミニ・キエーロというものを開発して取り組んできました。正面玄関にも4箱ほど置いてあります。ということで、ただ、キエーロは基材を入れていないため分解がのんびりしている等の限界があります。私も試してみましたが、基材を入れた段ボールコンポストのほうが早く分解が進むということがありました。ミニ・キエーロはどちらかというと初心者トライ版ですよね。扱いが非常に容易であるということが特徴です。

【**山岸委員**】基材が入っていなかったら堆肥として使用できるのでしょうか。例えば、ミニ・キエーロで作った土にごみを入れてそれを堆肥化したら、それは桜の肥として使っても良いということになるのでしょうか。

【**事務局**】自分で作った堆肥を御自身のところのプランターや庭で使うことは全く問題ございません。出来上がった堆肥をご自身以外、例えば農業に使うとか桜の木など公共のものに使用する場合は管理者の許可がまず必要と考えます。もう一つ問題なのは、コンポストで作られた堆肥の成分は詳細が分かりません。安全性が確保することが難しいため使用することは難しいと考えられます。

ごみ減量課としては、基本的に自分で作ったものを自分の土地の中に行うのは構わないが、それを公共のところに持ち運び使用するとき、土地の所有者や管理者に了承していただかないといけないと考えています。

【**山岸委員**】公共の場だけとお花を植えている人がいますよね。法律的には駄目だけど事例としてはあるということですか。

【**山谷会長**】公共の植え込み、公園、そういうところでしたら管理者の許可のもと使えると思いますが、それを販売するとなれば、肥料法の一定の規制を受けることとなると思います。食品で作った堆

肥を肥料の原料にしている埼玉県の堆肥化施設もあるようです。

【山岸委員】学校給食の残りは全部堆肥にしているという話を聞いたことがあります、それはやはり堆肥の会社で販売してということですか。

【事務局】そうです。家庭からでた生ごみを処理施設ではないところで堆肥を作るということは、実は法律上なかなか難しいところです。それが適切に処分されるところまで担保できないなど問題があります。自治体によっては、市民から出た生ごみを預かって、市民農園でまいているというところもあるようですが、それはグレーなところがかかなりあるということで、なかなか難しいと考えています。

山岸委員のトップランナーの話とつながってくると思いますが、確かにトップランナーと言ったときに、市民がトップランナーを目指しましょうとやってくれるかというところもそう簡単ではないと思います。海外では住んでいるところへの郷土愛や温暖化対策などの使命感で動く傾向があるようです。一方で日本人は、そういった動機よりも、楽しい、おいしいやお得だという動機のほうが環境問題に取り組みやすい傾向があるそうです。市民から集めた生ごみで堆肥ができて桜が元気になる、すごい楽しいよねというような、そういった思いは本当に良いことだと思います。そういったものが多分動機となるのだらうと思いますが、実際に行政がやろうとなると、法律的な面も含めて壁があるというのが現状です。

【山崎副会長】環境フェスタでミニ・キエーロの講習会や、パネル設置をもう少し大々的に実施すると良いと思います。こうやれば生ごみを減らせますよというちょっとした仕掛けを今一度地道に毎年繰り返していくことで市民の関心は集まるのかなと思います。花がこんなに生き生きしますよという写真を横に載せるとか、家庭菜園で使えますよとか、そういうこともできるのかなと思います。

【山谷会長】他の委員からもご意見がありました、広く市民に知っていただくには、市報特集号で取り上げると一番インパクトが大きいと思います。

【山岸委員】動画を作る。キエーロの再生数が多いので、そこに同じように動画を作ることも良いと思います。

【田中委員】市のホームページは少し見づらいです。

【山谷会長】行政情報についても、自治体によってごみリサイクルのほうから入っていくこともあれば、基本計画などは市政情報のほうからでないといけないこともあります。分野別で閲覧できることが一番良いと思います。確かに市民の方は、ホームページはあまり御覧になっていないと思います。

【神山委員】市としては、ホームページに載せたからもうみんな見ているでしょうという感じだと、それで安心して、私たちはやっていますよと思っているかもしれないですが、私から言わせると多分ほぼほぼ見ていないと思います。市報特集号についても興味がある人は見ているけれども、そうじゃない人はやはりごみになってしまうと思います。ペットボトルの水平リサイクル、シャンプーボトル等の回収や空コンタクトレンズケースの回収の取り組みも周知している市民は何人いるのかなと感じます。市民が認識できるような仕方を考えていかないと意味がないと思います。

【山崎副会長】なかなか情報発信することは難しいですね。

(2) 次回の日程について

第3回は6月14日(金) 10時から12時に行うこととした。

また、7月17日(水)は午前中に日の出町にある最終処分場の施設見学をし、午後に第4回を行

うこととした。

— 了 —